

袋井市立袋井市民病院改革プラン 点検及び評価報告書



平成 22 年 2 月
袋井市立袋井市民病院

目 次

1	経営効率化に係る計画	P 1
	(1) 財務に係る数値目標	
	(2) 公立病院としての医療機能に係る数値目標	
	(3) サービス向上に係る数値目標	
	(4) 数値目標設定の考え方	
	(5) 数値目標達成に向けての具体的な取り組み	
	(6) 収支計画	
2	再編ネットワーク化に係る計画	P 9
	(1) 中東遠二次医療圏内の公立病院等の配置の現況	
	(2) 静岡県医療計画等における今後の方向性	
	(3) 再編・ネットワーク計画における対応計画の概要	
3	経営形態見直しに係る計画	P 10
	(1) 経営形態の現況	
	(2) 経営形態見直し計画の概要	
4	改革プランの点検・評価に基づく今後の取り組み	P 10
	(1) 経営改善に向けた取り組み	
	(2) サービス向上に向けた取り組み	
	(3) 再編ネットワーク化に向けた取り組み	
別紙	収支計画	P 11
参考	指標項目の算出方法等	P 13

1 経営効率化に係る計画

今後の医療動向はもとより掛川市立総合病院との統合による新病院建設の進捗、あるいは医師をはじめとした相互交流等流動的要素はあるが、平成21年3月策定の「袋井市立袋井市民病院改革プラン」では、平成20年度の経営指標に係る数値目標を次のとおり設定した。

なお、掛川市立総合病院との統合に伴い、診療体制の相互補完等が行われることから、適時・適切に計画を見直すものとする。

(1) 財務に係る数値目標

ア 損益計算書に関するもの

指 標 名	平成19年度 (実績)	平成20年度 (プラン)	平成20年度 (実績)	対プラン増減	対プラン増減比
経常損益額	△237,959千円	△462,000千円	△277,400千円	184,600千円	39.9%
総収支比率	95.4%	91.4%	94.5%	3.1	3.4%
経常収支比率	96.0%	92.0%	95.2%	3.2	3.5%
医業収支比率	83.7%	79.1%	82.3%	3.2	4.0%
職員給与費比率 (対医業収益)	66.5%	68.0%	64.8%	△3.2	△4.7%
材料費比率 (対医業収益)	26.0%	30.2%	30.1%	△0.1	△0.3%
他会計繰入金比率 (対医業収益)	17.8%	19.2%	18.5%	△0.7	△3.6%
資本費比率 (対医業収益)	11.4%	10.9%	10.3%	△0.6	△5.5%

<平成20年度結果>

プランと比較し経常収益は上回り経常費用が減額となったことから、経常損失額は縮小した。そのため、各収支比率もプランに比べ向上した。また、職員給与費比率は平成19年度実績と比較し減少したものの、重篤な急性期の患者に対応するため、材料費比率は増加した。

イ 貸借対照表に関するもの

指 標 名	平成19年度 (実績)	平成20年度 (プラン)	平成20年度 (実績)	対プラン増減	対プラン増減比
不良債務比率 (対医業収益)	0%	0%	0%	0.0	0%
累積欠損金比率 (対医業収益)	0%	4.6%	0.5%	△4.1	△89.1%
流動比率	601.9%	441.0%	591.2%	150.2	34%

<平成20年度結果>

プランの見込よりは減少となったものの、平成20年度決算から初めて累積欠損金が生じ、流動資産を流動負債で除した流動比率は、平成19年度実績に比較し、約10ポイント悪化した。

ウ 財務に係る数値目標

指 標 名	平成19年度 (実績)	平成20年度 (プラン)	平成20年度 (実績)	対プラン増減	対プラン増減比
病床利用率	49.3%	44.3%	44.7%	0.4	0.9%
平均在院日数	16.4日	17.6日	15.8日	△1.8日	△10.2%
入院患者1日一人当たりの診療収入	47,101円	49,600円	51,344円	1,744円	3.5%
外来患者1日一人当たりの診療収入	8,694円	8,800円	8,847円	47円	0.5%
新患率	7.9%	8.5%	7.3%	△ 1.2	△14.1%

<平成20年度結果>

平成19年度実績と比較し、平均在院日数が減少したため病床利用率は減少したが、入院、外来患者ともに1日一人当たりの診療収入が増額となったことにより、医業収益は増収となった。

(2) 公立病院としての医療機能に係る数値目標

指 標 名	平成19年度 (実績)	平成20年度 (プラン)	平成20年度 (実績)	対プラン増減	対プラン増減比
入院1日平均患者数	197人	177人	179人	2人	1.1%
外来1日平均患者数	595人	540人	542人	2人	0.4%
患者紹介率	48.4%	50.0%	54.2%	4.2	8.4%
患者逆紹介率	38.0%	31.5%	34.2%	2.7	8.6%
救急患者取扱人数	8,476人	7,742人	7,168人	△574人	△7.4
手術件数	1,223件	1,098件	1,186件	88件	8%
臨床研修医数	6人	1人	1人	0	0

<平成20年度結果>

1日平均患者数はほぼプランどおりであったが、平成19年度実績と比較し、入院、外来患者ともに大きく減少した。また、救急患者取り扱い人数や手術件数も同様の傾向にある。

(3) サービス向上に係る数値目標

指 標 名	平成19年度 (実績)	平成20年度 (プラン)	平成20年度 (実績)	対プラン増減	対プラン増減比
患者満足度（入院）	69.2点	75.0点	70.0点	△5点	△6.7%
患者満足度（外来）	62.3点	70.0点	62.9点	△7.1点	△10.1%
患者平均待ち時間	38.9分	38分	34.3分	△3.7分	△9.7%

<平成20年度結果>

患者満足度では、プランの目標数値には達せず、昨年とほぼ同様であった。

(4) 数値目標設定の考え方

ア 計画最終年となる平成23年度において、経常黒字(経常収支比率100%以上)を達成するよう最大限の努力をする。

イ 必須となる経常収支比率、職員給与費比率、病床利用率以外の任意の数値目標については、医療の提供内容を反映するものとし、診療単価や経費節減、患者サービスの改善に結びつく指標とした。

(5) 数値目標達成に向けての具体的な取り組み

ア 民間的経営手法の導入

取組方針	取組内容	評価
・より機動的、弾力的な病院経営を可能とするため、民間的経営手法の導入に心掛けるとともに、掛川市立総合病院との統合までの間についての効率的経営策を検討する。	経費削減のため、予算額50万円以上の委託業務については一般競争入札を実施するとともに、債務負担により経費削減が可能なものには複数年契約を条件として一般競争入札を実施した。また、重油については原油価格の変動に迅速に対処できるよう、毎月入札を行うなど、徹底した経費削減に努めた。	→

イ 事業規模・形態の見直し

取組方針	取組内容	評価
・適正な病床数を検討し、平成23年度を目途に病床利用率70%をめざす。	入院1日平均患者数が前年より18人減少し、病床利用率が44.7%となった。病床利用率を向上させるため、近隣病院や開業医との連携を推進し紹介患者の増加に努めるとともに、今後、DPCの導入により平均在院日数が減少し、さらに病床利用率が低下する可能性が高いことから、許可病床数の見直しも視野に入れ検討する必要がある。	↘


取組方針	取組内容	評価
・病院施設設備の老朽化と医師不足に対応するため、平成25年の開院をめざし、掛川市立総合病院との統合により新病院を建設する。新病院の病床数は、500床程度とする。	平成25年春の開院を目指し「掛川市・袋井市新病院基本構想」を策定するとともに、「新病院建設に関する協定書」を袋井市と掛川市で締結した。平成21年4月からは「掛川市・袋井市新病院建設準備会」を発足させ、新病院開院に向けての諸作業を確実に進めていく。	↗


ウ 経費削減・抑制への取り組み


取組方針	取組内容	評価
・職員数（正規・嘱託・臨時）の適正化や時間外勤務の削減による人件費の抑制を図るとともに、委託派遣人員の見直しを行う。また、病院経営の専門職員を育成するため、事務系職員の病院採用に努める。	医師、看護師については退職者数が採用者数を上回り、大幅な減員となった。また時間外勤務については、業務の見直しに取り組み削減を行うとともに、新たに病院専従の事務系職員を育成するため、採用試験を実施し正規職員を採用することとした。	↗

取組方針	取組内容	評価
・各種業務委託について業務内容を見直すとともに、一般競争入札制度の徹底を図る。また、債務負担により経費削減が可能なものは複数年契約とする。	予算編成時に業務内容の見直しを行い、基本的に予算額50万円以上の委託については一般競争入札を実施した。債務負担により経費削減が可能なものには複数年契約を条件として一般競争入札を実施し、年度ごとの業務内容の見直しとさらなる価格の低減化に努めている。	↗


取組方針	取組内容	評価
・検査量に見合った検査室や放射線室などの効率的運用を徹底する。	業務量を見直す中で、不要と思われる検査室を閉鎖し、適正な人員配置を行い業務の効率化を図った。	↗


取組方針	取組内容	評価
・診療材料や医薬品の価格交渉の強化に努めるとともに、医薬品や診療材料の原価意識の徹底を図り、減耗や廃棄などの無駄の防止に努める。	高額な診療材料については、院長及び診療科部長の協力により、業者と価格交渉して引き下げを実施。薬品についても交渉の結果、引き下げとなった。また、使用状況に応じて診療材料定数を見直し、過剰在庫を防止するとともに、薬品の破損破棄調査結果を現場にフィードバックし無駄の削減を実施した。	


取組方針	取組内容	評価
・平成21年度からのDPC（入院医療費の包括的支払方式）請求開始を踏まえ、ジェネリック医薬品の積極的導入を推進する。	平成21年度からのDPC請求開始に先駆け、年度後半から病棟で使用する医薬品のうちジェネリック化可能なものを検討選定し、薬事審議会において採用した。 （新規採用ジェネリック医薬品：24品目（全て注射薬））	


取組方針	取組内容	評価
・企業債の新規借入を抑制し、企業債残高の着実な減少を図る。	平成19年度において、利率の高い企業債については繰上償還を実施し企業債残高を減少させるとともに、平成20年度には病院移転新築事業や耐震補強事業、医療機器整備事業に関する3口の企業債について償還が終了した。今後も計画的に償還を進めるとともに、新規の企業債借入は新病院建設を視野に入れ慎重に対処する。	

エ 収入増加・確保対策

取組方針	取組内容	評価
・医師確保に向け、これまで以上に関連大学への要請や関係機関への働きかけなど活動を強化する。	開設者である市長をはじめ、院長や副院長、事務局長を中心に名古屋大学医学部、浜松医科大学に対し積極的に要請を行った。 （名大9回、浜医4回）	

取組方針	取組内容	評価
・統合を前提に、掛川市立総合病院との医師、看護師等の人事交流を推進する。	当院から放射線科・循環器科医師を派遣するとともに、掛川市立総合病院から泌尿器科・産婦人科医師及び診療放射線技師の派遣を受けた。 また看護部では、研修のため助産師を掛川市立総合病院から受け入れるとともに、看護部長・副部長・師長による統合に向けたワーキングを開始した。	

取組方針	取組内容	評価
・研修医の確保に向け、静岡県や東海北陸厚生局、民間が主催するセミナー等に積極的に参加するとともに、ホームページでのPRに努める。	静岡県主催の説明会3回、東海北陸厚生局主催の説明会1回、民間主催の説明会2回に参加し、研修医の募集活動を行ったことにより、平成21年度に研修医1名を採用した。	

取組方針	取組内容	評価
・医師確保に向け、短時間勤務による正規雇用について検討を行い、勤務時間の弾力化、多様化を図る。	「地方公共団体の一般職の任期付職員の採用に関する法律」に基づき短時間勤務による正規雇用は可能であるが、利用者の掘り起こしにつなげることはできなかった。	

取組方針	取組内容	評価
・育児等により離職した女性医師の復職を促すため、育児短時間勤務制度や任期付専門職員の採用制度を積極的に活用する。	女性医師の募集にあたり、育児短時間勤務制度や院内保育所の24時間対応等により仕事と子育ての両立を支援するとホームページでPRしているが、今のところ女性医師の確保には至っていない。	⇒

取組方針	取組内容	評価
・女性医師及び看護師の確保に向け、24時間院内保育の導入について検討する。	すでに24時間保育を実施している病院への視察、現委託先である社会福祉法人との協議、看護師への希望調査を実施したが、利用希望者数の少なさや経費負担の問題により実施には至っていない。今後の育児支援施策については、看護部と事務局が連携し取り組んでいく。	⇒

取組方針	取組内容	評価
・将来に向け、研修医や若手医師を計画的に確保できるよう、医科大学生を対象とした本院独自の支援策を検討する。	浜松医科大学の学生と当院医師による意見交換会を開催し、学生が臨床研修病院に対してどのようなことを望んでいるのか情報収集に努めた。	⇒

取組方針	取組内容	評価
・本院の将来を担う医師を、病院経営学の専門研修に派遣するなど、医療幹部職員の経営能力の向上を図る。	静岡県が実施した「医療経営人材養成講座」へ事務職員1名を派遣するとともに、次年度も引き続き副看護部長を派遣する。	⇒

取組方針	取組内容	評価
・療養環境加算を取得していない病棟について、同加算の取得に努める。	平成18年11月から、4階西病棟、4階南病棟、5階西病棟にて療養環境加算を算定している。さらに療養環境加算の算定病棟の増加を検討したが、許可病床数の削減が前提となることから、現状では難しい状況となっている。	⇒

取組方針	取組内容	評価
・産科医不足を補うため、院内助産院の設置について検討を行う。	常勤産婦人科医がいないことから、分娩で予想外の事態が起きたとき迅速・的確に対応できないため、院内助産院の設置は難しい現状にある。	⇒

取組方針	取組内容	評価
・クリニカルパスを拡充し、地域の医療・保健・福祉サービスと連携し平均在院日数の短縮を図る。	平成20年7月から静岡県西部地区脳卒中地域連携パス研究会に参加し、院内外の運用について検討した。今後は、脳卒中地域連携パスに係る施設基準の届出を行う予定である。	⇒

取組方針	取組内容	評価
・入院患者の掘り起こしとなる紹介患者の増や外来診療、健診業務、救急業務の充実を図る。	広報ふくろいやホームページ、袋井市民病院だより「ふかみ草」等において診療の案内を掲載し、外来・入院診療の広報に努めるとともに、紹介患者数を増やすため、地域の医療機関を訪問し、患者の紹介依頼や情報交換に努めている。	➡

取組方針	取組内容	評価
・予約枠に余裕のある脳ドックのPRを積極的に行い受診者数の増に努める。	広報ふくろいへの掲載や、院内案内コーナーへパンフレットを設置するなど、脳ドック受診をPRしているが、受診者増には至っていない。 (平成19年度：27人 → 平成20年度：18人)	➡

取組方針	取組内容	評価
・本院医師と開業医との定期的な情報交換など、近隣病院や開業医との交流・連携を強化し、紹介患者を増やす。	定期的に地域の医療機関を訪問し、情報交換に努めるとともに患者の紹介を依頼している。また、当院の診療案内冊子を発行し、診療情報の発信に努めている。	➡

取組方針	取組内容	評価
・当面は7：1入院基本料を継続算定していくため、配置基準の継続を図る。	必要な看護師数の確保に努め、月ごとに入院患者数と病棟配置看護師数を確認し、7：1入院基本料の算定基準を満たしているか確認している。また、平均在院日数を診療科別に算出し管理者及び各病棟に報告し、算定基準となる平均在院日数が19日以内となるよう確認している。	➡

取組方針	取組内容	評価
・請求漏れや請求ミスを防ぐため、職員のスキルアップを図り、正確・確実なレセプト点検に努める。	毎月、保険診療委員会を開催し、査定状況の確認と査定防止対策について検討している。また、保険請求関係の研修等に積極的に参加し、情報収集と能力向上を図っている。	➡

取組方針	取組内容	評価
・入院費等の支払相談に応じ、医療費未収金の発生防止に努める。また、未収金の回収率向上のため、支払期限の約束や分割払いを進めるとともに、督促や催告、戸別訪問や連帯保証人への請求などを強化する。また、必要に応じて法的措置を講ずる。	未収金発生防止のため、入院時に概算医療費の説明、入院誓約書（連帯保証人）の提出、限度額適用認定や高額療養費貸付などの制度利用の案内等、患者さまに対し丁寧な相談等を実施した。また、市収納対策事業として、事務局職員全員で回収に向け取り組んだ。	➡

取組方針	取組内容	評価
・医師住宅跡地や駐車場等、未利用資産の処分に努める。	医師住宅跡地については、平成19年度に公募し5区画中1区画を売却した。平成20年4月に条件を緩和し、再度公募したが応募にはつながらなかった。	➡

オ 職員の意識改革と患者サービスの向上

(ア) 新病院建設に向けた意識改革

取組方針	取組内容	評価
・掛川市立総合病院との統合に向けて職員のマチベーションを高めるとともに、さらなる資質の向上に努める。	掛川市・袋井市新病院建設協議会の「協議会だより」を各部署に配布し情報提供に努めるとともに、平成21年度に策定する「基本計画」に向けて、全職員を対象としたアンケート調査を実施した。また、新病院建設協議会にて実施したアンケート調査に協力するとともに、シンポジウムや市民説明会へ積極的に参加した。	⇒

(イ) 患者の視点に立った患者サービスの向上・充実への取り組み

取組方針	取組内容	評価
・職員への病院の理念や運営方針の周知徹底を図るとともに、患者や市民、関係機関など院外への周知にも努める。また、医療の原点に立ち返り、心を込めて患者に接するよう努める。	各部署に、病院の理念・運営方針を掲示するとともに、名札ケースに入れ常に携帯できるようにしている。また、新規採用職員オリエンテーションにおいて、病院の理念・運営方針を解説し、病院職員が一丸となって取り組むよう指導した。	⇒


取組方針	取組内容	評価
・目的達成に向け、職員同士が協力し、助け合ってことにあたる職場風土や機運を確立する。	各部署において定期的に会議を開催するとともに、全職種の係長職以上（医師は診療部長以上）の職員が一堂に会して行う連絡協議会を月1回開催し、情報の共有化とともに、進んで職員同志が協力しあう機運の醸成に努めている。	⇒


取組方針	取組内容	評価
・患者満足度調査や待ち時間調査を定期的に実施し、CS実地研修や接遇研修など患者満足度の向上に努める。	患者満足度調査を実施したところ、入院部門の総合満足度は70.0点でプラン見込より5ポイント低かったものの、前回調査からは0.8ポイントのアップとなった。外来部門においても総合満足度は62.9ポイントとプラン見込より7.1ポイント低かったものの、前回調査からは0.6ポイントのアップとなった。	⇒

取組方針	取組内容	評価
・治療に対する患者の理解を得られるよう、インフォームドコンセントを徹底する。	患者と医師の面談時に看護師が同席し、患者の理解度を確認しフォローするとともに、入院患者に対しては1日の予定確認と併せて入院生活において困っていることを聞くなど、コミュニケーションを充分とるよう努めている。また、術前術後訪問での説明と不安軽減に努め、ケア・処置前の説明と同意を得るよう取り組んでいる。	⇒

取組方針	取組内容	評価
・予約方法の見直しなどにより、外来患者の待ち時間の短縮を図る。	初診患者に対しては新患予約制により、待ち時間の短縮を図るとともに、予約がない紹介状持参者等に対してもスムーズな受診が出来るよう配慮している。また、実際の外来患者数に見合った予約人数とするために、外来部門と連携しながら予約枠の改変を柔軟に行っている。	⇒


取組方針	取組内容	評価
・職員一人ひとりが経営改善に向け、目標の共有化と意識改革に取り組むとともに、研修の充実等により人材の育成を図る。	毎月の経理状況、四半期ごとの経理状況を全職種が出席する連絡協議会にて報告し、情報の共有化を図るとともに、経営状況に対する意識の向上に努めている。	⇒


取組方針	取組内容	評価
・より一層の医療の信頼性確保のため、医療の質の向上と安全の確保に努める。 (専門研修、学会への参加、講演会の実施、職場研修等)	各専門学会や全国自治体病院学会へ職員を派遣し、知識技能の研鑽に励むとともに、院内においても研修会を開催し、医療安全等の向上を図った。	


取組方針	取組内容	評価
・本院の医療に対する信頼度と質の一層の向上を図るため、新たな病院機能評価の取得に努める。	平成19年度に日本医療機能評価機構のVer.5の認定を受け(認定期間平成19年~平成24年)、さらに質の高い・信頼される病院を目指していく。	

カ 環境保全とバリアフリーへの取り組み


(ア) 環境保全等への取り組み

取組方針	取組内容	評価
・病院から出される医療廃棄物について、分別の徹底に努めるとともに、委託先に出向き処分状況を実際にチェックするなど、安全かつ適切な処理に努める。	職員の分別徹底を推進するとともに、廃棄業務委託業者の処分状況について実際に作業工程を確認しチェックしている。 また、保健所による立ち入り検査においても、医療廃棄物処理についての指摘等はない。	

取組方針	取組内容	評価
・消灯やきめ細かい室温調整などの節電を徹底し、病院全体のエネルギー消費の削減に努める。	使用していないエリアの消灯、夏期におけるエアコン温度設定28℃の実施等病院全体に節電を呼びかけるとともに、中部電力との契約電力量上限を超える可能性のある時には、事務室を中心にエアコンをこまめに停止するなど削減に努めた。	

取組方針	取組内容	評価
・両面印刷の奨励、再生紙利用、不用紙の再利用など紙資源の節約とともに、トイレや洗面所での節水の徹底など省資源に努める。	病院内で印刷するものには基本的に使用済用紙の裏面を使い、新規購入用紙は再生紙を原則としている。さらに、使用済封筒も支障の無い範囲で無駄なく再利用している。また、トイレや洗面所に節水を促すお知らせを掲示し、利用者に徹底を図っている。	

(イ) バリアフリーへの取り組み

取組方針	取組内容	評価
・今後も、誰もが利用しやすく安全性の高いバリアフリー化を進める。	来院者等からの要望により、既にバリアフリー化を行っている。今後もニーズ把握に努めるとともに、定期的な点検を行い誰もが安全に利用できる施設を目指していく。	

2 再編ネットワーク化に係る計画

(1) 中東遠二次医療圏内の公立病院等の配置の現況（平成20年4月1日現在）

- 構成市 : 袋井市、磐田市、掛川市、御前崎市、菊川市、森町
面積 : 798.42平方キロメートル
人口 : 470,736人
病院 : 袋井市立袋井市民病院(400床)、磐田市立総合病院(500床)
掛川市立総合病院(450床)、御前崎市立総合病院(302床)
菊川市立病院(270床)、公立森町病院(140床)

(2) 静岡県医療計画等における今後の方向性

静岡県医療計画では平成16年9月30日現在の病床数の過不足状況は、県の基準病床に対し既存病床は過剰となっている。しかしながら、中東遠保健医療圏においては、基準病床数3,081床に対し、既存病床数2,980床と101床の不足となっている。

また、二次医療圏の課題としては、地域及び地域外の医療機関との連携、医療機能の充実、救急医療の強化が挙げられる。具体的には

- ・二次救急機能の強化、三次救急施設との連携強化
- ・医師確保のための病院ネットワーク化の促進
- ・研修医確保のための教育・研修の強化が挙げられる。

(3) 再編・ネットワーク計画における対応計画の概要

ア 時期

袋井市立袋井市民病院と掛川市立総合病院との統合による新病院建設に向け、一部事務組合を設立し、平成24年度末の開院を目指す。

イ 内容

急性期医療を中心とし、循環器系疾患（脳血管疾患、心疾患）に対する機能強化をはじめ、小児医療や周産期医療、救急医療等が充実した病床数500床程度の新たな病院を開設する。

<取組内容>

「掛川市・袋井市新病院基本構想」では、新病院の将来像として6つの基本理念を掲げ、質の高い医療の提供や救急医療体制の充実など市民が安心できる病院を目指すことを明記するとともに、新病院の規模を500床程度と定めている。

また、今後は新病院建設に係る一部事務組合「新病院建設事務組合」を立ち上げ、平成24年度末の開院を目指し、新病院建設に係る事務を確実にを行うとともに、統合によって公立病院の再編・ネットワーク化に着実に取り組む。

3 経営形態見直しに係る計画

(1) 経営形態の現況

公設公営の病院として運営しており、地方公営企業法における会計処理を企業会計方式とする財務規定を適用している。（地方公営企業法一部適用）

(2) 経営形態見直し計画の概要

ア 時期

掛川市立総合病院との統合と併せる。（平成24年度内）

イ 内容

開院時における経営形態は、一部事務組合の地方公営企業法全部適用とする。ただし、開院後速やかに将来的な経営形態等について検討を行う。

<取組内容>

平成20年度に策定した「掛川市・袋井市新病院基本構想」では、新病院の経営形態について、開院時は一部事務組合の地方公営企業法全部適用が最善であるとし、開院後、直ちに将来的な経営形態について検討を始めることが望ましいとしている。

4 改革プランの点検・評価に基づく今後の取り組み

(1) 経営改善に向けた取り組み

ア DPC導入による入院医療費の適正化を図る。

イ 循環器内科・脳神経外科・整形外科など急性期病院としての袋井市民病院の特色や強みの周知に努め、入院患者数と診療単価の増加を図る。

ウ 動脈硬化外来や胃部内視鏡外来など特色ある外来診療を実施し、外来患者の増加を図る。

エ 病院事業費用の一層の縮減。

・退職不補充を原則とした医療技術職の削減や事務局職員の削減、非常勤医師の賃金見直しなど、さらなる人件費の縮減に努める。

・使用頻度の高い薬品を中心にジェネリック医薬品の積極的な導入を図るとともに、診療材料費をさらに削減させるため、GPO（共同購入組織）に加盟し全国54病院と共同購入を行い経費の削減に努める。

(2) サービス向上に向けた取り組み

ア 分かりやすい診療科目の標榜（循環器内科・糖尿病内科・リウマチ科など）。

イ 愛され、親しまれ、信頼される病院を目指し、さらなる接遇の向上に努める。

(3) 再編ネットワーク化に向けた取り組み

袋井市立袋井市民病院と掛川市立総合病院との統合による新病院の建設に向け、新病院建設事務組合と連携し着実な事業推進を図る。

【別 紙】

1. 収支計画（収益的収支）

（単位：百万円、％）

年度		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (プラン)	20年度 (実績)	対プラン 増減	対プラン 増減比
区分							
収 入	1. 医 業 収 益 a	5,394	4,766	4,437	4,590	153	3.4%
	(1) 料 金 収 入	5,205	4,665	4,366	4,516	150	3.4%
	(2) そ の 他	189	101	71	74	3	4.2%
	うち他会計負担金						
	2. 医 業 外 収 益	741	913	896	905	9	1.0%
	(1) 他会計負担金・補助金	677	850	850	850	0	0.0%
	(2) 国（県）補助金	15	12	7	7	0	0.0%
	(3) そ の 他	49	51	39	48	9	23.1%
	経 常 収 益 (A)	6,135	5,679	5,333	5,495	162	3.0%
	支 出	1. 医 業 費 用 b	6,511	5,695	5,608	5,578	△ 30
(1) 職 員 給 与 費 c		3,607	3,168	3,019	2,973	△ 46	-1.5%
(2) 材 料 費		1,459	1,237	1,338	1,382	44	3.3%
(3) 経 費		965	775	789	773	△ 16	-2.0%
(4) 減 価 償 却 費		443	439	411	400	△ 11	-2.7%
(5) そ の 他		37	76	51	50	△ 1	-2.0%
2. 医 業 外 費 用		241	222	187	195	8	4.3%
(1) 支 払 利 息		121	105	71	71	0	0.0%
(2) そ の 他		120	117	116	124	8	6.9%
経 常 費 用 (B)		6,752	5,917	5,795	5,773	△ 22	-0.4%
経 常 損 益 (A)-(B) (C)		△ 617	△ 238	△ 462	△ 278	184	-39.8%
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)		8				
	2. 特 別 損 失 (E)	13	43	42	44	2	4.8%
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	△ 13	△ 35	△ 42	△ 44	△ 2	-4.8%
純 損 益 (C)+(F)		△ 630	△ 273	△ 504	△ 322	182	-36.1%
累 積 欠 損 金 (G)				206	24	△ 182	-88.3%
不 良 債 務	流 動 資 産 (ア)	3,029	1,932	1,323	1,484	161	12.2%
	流 動 負 債 (イ)	473	321	300	251	△ 49	-16.3%
	うち一時借入金						
	翌年度繰越財源(ウ)						
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (エ)						
差引 不 良 債 務 (オ) {(イ)-(エ)}-{(ア)-(ウ)}							
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		90.9%	96.0%	92.0%	95.2%	3.2	3.5%
不 良 債 務 比 率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$							
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$		82.8%	83.7%	79.1%	82.3%	3.2	4.0%
職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 $\frac{(c)}{(a)} \times 100$		66.9%	66.5%	68.0%	64.8%	△ 3.2	-4.7%
地方財政法施行令第19条第1項により算 定した資金の不足額 (H)							
資 金 不 足 比 率 $\frac{(H)}{a} \times 100$							
病 床 利 用 率		57.8%	49.3%	44.3%	44.7%	0.4	0.9%

2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

年度		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込)	20年度 (実績)	プラン増 減	プラン対 比
区分							
収入	1. 企業債	200	80	0	0	0	0%
	2. 他会計出資金						
	3. 他会計負担金						
	4. 他会計借入金						
	5. 他会計補助金						
	6. 国(県)補助金						
	7. その他		5		1	1	皆増
	収入計(a)	200	85	0	1	1	皆増
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額(b)						
	前年度許可債で当年度借入分(c)						
純計(a) - [(b) + (c)] (A)	200	85	0	1	1	皆増	
支出	1. 建設改良費	268	133	134	84	△ 50	-37.3%
	2. 企業債償還金	551	800	335	335	0	0.0%
	3. 他会計長期借入金返還金						
	4. その他						
	支出計(B)	819	933	469	419	△ 50	-10.7%
差引不足額(B)-(A)(C)		619	848	469	418	△ 51	-10.9%
補てん財源	1. 損益勘定留保資金	619	616	436	385	△ 51	-11.7%
	2. 利益剰余金処分量		232	33	33	0	0.0%
	3. 繰越工事資金						
	4. その他						
計(D)		619	848	469	418	△ 51	-10.9%
補てん財源不足額(C)-(D)(E)							
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額(F)							
実質財源不足額(E)-(F)							

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:千円)

	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (プラン)	20年度 (実績)	プラン増 減	プラン対 比
収益的収支	677,000	850,000	850,000	850,000	0	0.0%
資本的収支	-	-	-	-	-	-
合計	677,000	850,000	850,000	850,000	0	0.0%

【参 考】

指標項目の算定方法等

指 標 名	算 式 等
経常損益額	経常収益 - 経常費用
総収支比率	$\frac{\text{経常収益} + \text{特別利益}}{\text{経常費用} + \text{特別損失}} \times 100$
経常収支比率	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
医業収支比率	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
職員給与費比率（対医業収益）	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$
材料費比率（対医業収益）	$\frac{\text{材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$
他会計繰入金比率（対医業収益）	$\frac{\text{一般会計繰入金}}{\text{医業収益}} \times 100$
資本費比率（対医業収益）	$\frac{\text{資本費（減価償却費} + \text{支払利息）}}{\text{医業収益}} \times 100$
不良債務比率	$\frac{\text{流動負債} - (\text{流動資産} - \text{翌年度繰越財源})}{\text{医業収益}} \times 100$
累積欠損比率	$\frac{\text{累積欠損金}}{\text{医業収益}} \times 100$
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
病床利用率	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{\text{年間許可病床数}} \times 100$
平均在院日数	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{1/2 \times (\text{年度中の新入院患者数} + \text{退院患者数})}$
入院患者1日一人当たりの診療収入	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年間延入院患者数}}$
外来患者1日一人当たりの診療収入	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年間延外来患者数}}$
新患率	$\frac{\text{年間新患者数}}{\text{年間外来患者数}} \times 100$
入院1日平均患者数	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{\text{入院診療日数}}$
外来1日平均患者数	$\frac{\text{年間延外来患者数}}{\text{外来診療日数}}$
患者紹介率	$\frac{\text{文書紹介初診患者数} + \text{救急患者数}}{\text{初診患者数} - \text{時間外休日6歳未満初診患者数}} \times 100$
患者逆紹介率	$\frac{\text{逆紹介患者数}}{\text{初診患者数}} \times 100$
救急患者取扱件数	時間外救急患者数
手術件数	年間手術件数
臨床研修医数	年度末研修医師数
患者満足度	患者満足度調査総合評価点
患者平均待ち時間	外来患者平均待ち時間

袋井市立袋井市民病院改革プラン
点検及び評価報告書

発行：平成 22 年 2 月
袋井市立袋井市民病院
<http://www.fukuroi-hospital.jp/>

編集：袋井市立袋井市民病院(事務局管理課企画政策室)
〒437-0061 静岡県袋井市久能 2515 番地の 1
TEL: 0538-43-2511 FAX: 0538-43-5576
E-mail: kanri-b@city.fukuroi.shizuoka.jp